

# 光星猛攻 打者一巡

## 工大一振るわず4安打

▽3位決定戦(六戸メイト) 八工大 100001102  
1050022×102  
八学光星(七回コールド)  
(工) 田中 和太 大坂 長  
(内) 工藤 福山 瀬川

▽3塁打 近藤(光)▽二塁打 花房(小池) 福山(光)  
▽暴投 福山(光)  
【評】八学光星は初回、3番小淵の適時右前打で先制すると、三回に打者一巡の猛攻で二学5点を奪い、五、六回にも二点

ずつを挙げてコールド勝ちを決めた。投げては主戦福山が要所を締める投球で、7回を被安打4球、2失点にまどめた。八工大は投手陣が総崩れ、打線も振るわず

四回まで無安打。得点母振り逃げと押し出し死球の2点にとどまった。光星 エース争い激化 ○：八学光星は先発の2年生福山が2失点に抑

え、エースの役割を果たした。一方、暴投や押し出した失点する場面もあった。投手陣の成長も東北大で躍進できるかどうかの鍵を握りそうだ。今大会は、昨秋に背番号1を付けた3年生向井がけがで欠場。ただ、東北大には復帰できる見通しで、投手陣のエース争いが熱を帯びる。福山は「向井がベンチに入っても1番を取られないようなピッチングを見せたい」と、闘志を燃やしていた。

「過信」悔やむ工大一 ○：八学光星に4安打に封じ込まれ、東北大会の切符を逃した八工大一。主将の菊池は「勝てるという過信があった。勝ち上がったきたフライドを捨てきれなかった。腹をくくってやるべきだった」と悔しさをにじませた。



【3位決定戦・八工大―八学光星】3回裏、八学光星2死一、三塁、花房が右翼線に適時二塁打を打ち6―0(コールド)



3回裏、八学光星2死満塁、馬場の左前適時打で三走・近藤と二走・小淵が生還し4点目を挙げる。捕手・工藤

### 春季 県高校野球

最終日

春季県高校野球選手権は最終日の28日、六戸町の六戸メイトスタジアムで決勝を行い、青森山田が聖愛の追い上げを振り切って3―2で接戦を制し、4年ぶり10回目の優勝を成し遂げた。3位決定戦は八学光星が猛打を振るい、

10―2の七回コールドで八工大―に勝利、2年ぶり18回目の春季東北大会出場を決めた。本県代表として青森山田、聖愛、八学光星の3校が出場する春季東北大会は、6月8日に宮城県で開催する。